

お米やっどできた

園児34人脱穀、もみすり体験

福井市の社中央保育園 34人が4日、同市湊4丁目
と同第二保育園の園児計の社中央保育園の園庭で



千歯こぎで脱穀を体験する園児 4日、福井市湊4丁目の社中央保育園

稲の脱穀ともみすりを体験した。約半年をかけて米作りの一連の作業を行い、ようやく姿を見せた「お米」に歓声を上げた。園児たちは4月、同市種池町の田んぼに手で苗を植え、8月に稲刈りやはさがけをした。米が口に入るまでにかかる手間暇を理解し、感謝の気持ちを持ってもらう目的。

4日は最終段階で、JA福井市社支店の職員と組合員4人がサポート。園児用にこしらえた小さな千歯こぎに稲を挟み引くと、ぱつぱつと軽い音を立ててもみが稲を離れていった。さらにそれを、やすり紙や、すり鉢を使って玄米に。園児たちは「うわー、やっとお米が出てきた」と喜んでいました。

社中央保育園の前川柳磨君(5)は「稲を引っ張ったら、いっぺんに取れた」ともみを見ながら笑顔で話した。米はおにぎりにして味わった。